

## 建設計画に係る平成23年度および24年度の実施事業に関する意見に対する対応調査

香南地区

地区名	項目番号	項目	事業の内容	担当部局	担当課	対応方針
香南地区	1	県道三木綾川線バイパスルート(仮称)の整備	<p>香南町と香川町の地域課題の解消が図られ、県道網の補完にもつながる生活基幹道路として、市当局の御尽力により、市道下川原北線を市道城渡吉光線まで西に470m延伸する道路および香東川橋梁工事の予算化が図られましたものの、県道三木綾川線バイパスルート(仮称)については今後の検討課題とされています。</p> <p>しかし、市道として整備が決定した部分から西へ延伸し、県道円座香南線、さらに、県道千疋高松線までの道路が完成すれば、生活の利便性が格段に向上し、地域が大きく活性化することはもちろん、香川町から香南町を經由し、岡本町や国分寺町方面へ抜ける新たなルートとなります。</p> <p>このことから、高松空港をはじめ、高松西インターチェンジや建設予定の新高松市民病院への重要なアクセス道路として、県道三木綾川線バイパスルート(仮称)の整備を、事業主体である香川県に対して引き続き働きかけをされるよう要望するものです。</p>	都市整備部	道路課	<p>県道三木綾川バイパスルート(仮称)の整備推進については、これまで県に対し強く要望してまいりましたが、一昨年8月に、県から方針が示され、当面の対策として、現道の機能強化を基本とし、バイパスルートの整備については、人口減少に伴う将来交通量の推計や、現道の機能強化による効果の検証を行う必要があることから、現時点では、検討を進めることは難しいと伺っております。</p> <p>このような中、県の方針を受けまして、本市といたしましては、香東川対岸へ渡る際、大きく迂回せざるを得ないという香川町と香南町の地域課題の解消が図られ、県道網の補完にもつながる生活基幹道路として、市道城渡吉光線まで西に470m延伸する計画で、現在、道路及び香東川橋梁の実施設計を進めており、今後とも、積極的に取り組んでいくことにしています。</p>
香南地区	2	市道の整備	<p>建設計画の重点取組み事項に位置づけられている市道16路線の整備については、建設計画期間内に完成されるよう要望するものです。</p> <p>また、県道円座香南線バイパスの一部(中間町から西山崎町までの1.9km)が供用開始され、県道千疋高松線を経由して香南地区に入り、高松空港へ向かう車輦が増加傾向にあり、特に「しげなり医院」から県道三木綾川線までのルートについては、今後、高松空港により近い市道南原音谷線を利用する車輦が増え、道路幅員が狭いため大変危険であり、渋滞も予想されますことから、市道南原音谷線を高松空港へのアクセス道として整備されることを要望するものです。</p>	都市整備部	道路課	<p>建設計画登載路線の整備につきましては、地域審議会や地元関係者等の御意見を聴き、費用対効果等を考慮する中、地元関係者の同意が得られた路線において、順次整備に努めてまいりたいと存じます。</p> <p>また、市道南原音谷線でございますが、この路線の交通量を減少させるため、現在、隣接する市道香川綾南線の2車線化を進めているところでございます。</p> <p>香川綾南線の整備完了後には、南原音谷線の将来日交通量が1,000台程度まで減少すると予測されておりますことから、香川綾南線完了後の交通量を見極めながら適切に対応してまいりたいと存じます。</p>
香南地区	3	県道の整備	<p>県道円座香南線の香南町由佐「由佐天満宮」から川部町までは、交通量が非常に多く、しかも車歩道の分離がなく危険なため、歩道の整備を要望するものです。</p> <p>また、県道三木綾川線の由佐交差点、南原交差点および坂下交差点については、朝夕は慢性的な交通渋滞を起こしていることから、建設計画の期間内に、渋滞を解消するための交差点改良工事が完了されるよう要望するものです。</p>	都市整備部	道路課	<p>県道円座香南線の香南町由佐「由佐天満宮」から川部町までの歩道整備および、県道三木綾川線の3箇所の交差点につきましては、県に申し入れたところ、現在、具体的な事業の計画はされておられません。地権者等地元関係者の協力が得られる場合は、今後、調査・検討を進めたいと伺っております。</p> <p>市といたしましても、今後、地権者等地元関係者の協力が得られるなど具体的な要望がまとまれば、県に申し入れてまいりたいと存じます。</p>
香南地区	4	高松空港の機能強化および活性化	<p>高松空港は都心部から30分余りという立地条件を備えており、高松市が四国の中枢拠点都市としてさらに発展していくためには、高松空港の機能強化が非常に重要です。</p> <p>このため、空港周辺に点在する公共の未利用地を有効に活用することが、拠点性をさらに高めることにつながります。</p> <p>そこで、まちづくり戦略計画の重点取組事業として、空港周辺の活性化施策について検討する、「高松空港周辺整備検討委員会(仮称)」を設置されることを要望するものです。</p>	市民政策部	交通政策課	<p>高松空港周辺の未利用地で、地方公共団体が所管しているものうち、まとまった面積があるものは、香川県土地開発公社が保有する、空港東北の国道193号西沿いの約4.2haの土地だけで、市の財産活用課公有財産管理室が所管する未利用地は、面積も狭く点在している状況です。</p> <p>また、民間が保有する未利用地としては、空港北側のアパホテル高松空港南側の、愛媛銀行所有地の約11haがあります。</p> <p>これら、他の関係者が保有する土地に関して、市が取り組むことはできませんので、御理解いただきたいと存じます。</p>
香南地区	5	香南保育所・幼稚園における幼保一体化の推進	<p>少子化の進行に伴い、安心して子どもを生み、育てることのできる地域環境の整備を進め、地域社会全体で子育てを支援することが緊急の課題となっています。</p> <p>このような中、香南地区においては、平成24年度の供用開始に向け、香南幼保一体化施設の整備が進められていますが、一体化に対応した教職員の人的措置を図るとともに、先進的で個性を伸ばす教育・保育カリキュラムの作成を要望するものです。</p>	健康福祉部 教育部	保育課 学校教育課	<p>一体化施設においては、幼保の職員が同じ勤務ローテーションの中で混合保育を実施するなど、新たな取組内容もありますことから、当面、原則として、1クラスに幼稚園教諭と保育士の2人担任制とすることとしております。</p> <p>また、良質な乳幼児教育・保育を実施するため、0歳児から小学校1年生までの子どもの発達に合わせた保育・教育課程のほか、幼保小学校間の連携や地域との連携、保護者支援の方針などを取り入れた高松型の乳幼児教育カリキュラムを本年度中に策定し、24年度から本格実施する予定です。</p>
香南地区	6	小中連携による一貫性のある教育の推進	<p>近年、個々の児童・生徒の発達に合わせた教育を行うためには、小学校と中学校で一貫性を持たせた教育をした方が良いということで、小学校と中学校の教育を統合した小中一貫校が全国各地で徐々に開校してきており、本市においても、本年4月、高松第一学園が完全開校されました。</p> <p>このような中、香南地区の小・中学校はそれぞれ1校で、かつ施設が隣接していることから、既存の小・中学校の施設を活用して、それぞれの組織・運営を維持しつつ、人的措置を図りながら、小中一貫教育カリキュラムを実施できる施設分離型連携校として位置づけ、小・中学校の連携をいっそう深めることにより、確かな学力や豊かな人間性等の育成を図られるよう要望するものです。</p>	教育部	学校教育課	<p>今後、高松第一学園における小中一貫教育の成果を整理・検証し、可能な限り、一貫教育のよさを取り入れる小中連携を推進するモデル校を指定し、指導内容および指導方法について、研究と実践を重ねることで全市への波及も図ってまいります。</p>

## 建設計画に係る平成23年度および24年度の実施事業に関する意見に対する対応調書

香南地区

地区名	項目番号	項目	事業の内容	担当部局	担当課	対応方針
香南地区	7	香南小学校大規模改修工事の早期着工	香南小学校の大規模改修工事については、市内全ての小・中学校および幼稚園の耐震化が完了後、その老朽度や緊急度を考慮しながら適切に対応していくとのことですが、香南小学校の大規模改修工事については、合併特例債などの有利な財源を活用することが可能であることから、建設計画の期間内に完成されるよう要望するものです。	教育部	総務課	改修工事については、平成27年度に市内のすべての小・中学校および幼稚園の耐震化が完了後、その老朽度、緊急度を考慮しながら適切に対応してまいりたいと存じます。
香南地区	8	校区内防犯ネットワークシステムの構築	香南地区では、保育所、幼稚園および小・中学校が連携し、「学校安全管理研修会」を開催し、校区内防犯ネットワークシステムの充実を図っているにも関わらず、校区周辺等での不審者情報が絶えません。今後は、その形式にとられず、地域も含めた校区内防犯ネットワークシステムの構築を要望するものです。	教育部 健康福祉部	少年育成センター 学校教育課 保育課	校区では、保育所、幼稚園および小中学校を対象に開催している「学校安全管理研修会」において、情報交換や連携を図り、児童・生徒等の安全確保に努めているところです。 また、地域も含めた防犯ネットワークにつきましては、不審者情報メール配信システムにより、市内の保育所、幼稚園、小中学校および地域で子どもを見守り育てる活動にあたる関係機関・団体等に、声かけやつきまといなどの不審者に関する情報を配信し、情報の共有化を図っているところです。 今後も、実効性あるネットワークの形成に向け、情報の共有化を推進し、児童・生徒等の安全確保に努めてまいりたいと考えております。
香南地区	9	防災行政無線を利用した一般広報の継続運用	香南地区では、平成5年4月から屋外スピーカーと各家庭の戸別受信機を使って、防災行政無線を利用した一般広報が行われていますが、住民の日々の暮らしに役立つ有益な情報が多く、毎日の生活には絶対欠かせないものになっています。 また、高齢化が急速に進展している中で、この一般広報は、耳から簡単に得られる生活情報として、高齢者の毎日の生活をしっかりサポートもしています。 一方で、この一般広報が廃止されますと、高松市をはじめ、各種団体等にとっては最高の情報伝達手段を失うとともに、住民にとっても香南地区内の各種情報が入りづらくなるなど、合併後のまちづくり面でもデメリットは大いだと思います。 このことから、防災行政無線を利用した一般広報については、将来的にも必ず存続させるとともに、各家庭にデジタル化に対応した戸別受信機を設置されるよう強く要望するものです。	総務部	危機管理課 広聴広報課	防災行政無線は、合併地区のうち塩江町を除く5地区が災害時の緊急放送や一般放送に使用しております。しかしながら、防災行政無線は、1市1波の原則があり周波数を統一する必要があることや総務省からの指導でデジタル式の通信しか認めないことから、旧高松地域で平成18・19年度に整備した屋外スピーカーで災害情報を伝達するデジタル式防災行政無線と同様に順次整備していく予定としております。 このようなことから、屋外スピーカーにつきましては、順次デジタル式に変更してまいります。戸別受信機は、現在のところ考えておりません。新たな防災行政無線を整備する3・4年後までは現在の防災行政無線を活用して、これまで同様一般放送が行えるものと考えております。また、デジタル式防災行政無線移行後は、「広報たかまつ」、本市のホームページ、ケーブルテレビ(自主データ放送含む。)を始め、各コミュニティ協議会の広報紙等の媒体を通じて、きめ細かい情報発信に努めてまいりたいと存じます。
香南地区	10	遊休農地の有効活用と適正管理	香南地区内でも、遊休農地が広がっている問題が深刻化しています。特に高松空港北側に広がる樹園地では、農家の高齢化に伴い、遊休農地が見受けられるようになり、病虫害発生の原因ともなっています。 このような中、香南アグリームでは遊休農地を活用した市民農園が開設され、40区画ある農園には空き待ちの待機者が数十名いるようにも聞きました。 高松市として、遊休農地を活用した市民農園の整備等、遊休農地の有効活用や適正管理の具体的な方策の実施を要望するものです。	産業経済部 農業委員会	農林水産課 農政課	香南アグリームの市民農園につきましては、現在、待機待ちの状態でありますので、隣接する休耕地を検討しましたが、傾斜地があることから、市民農園としての有効利用には、適さないものと認識しております。 また、遊休農地の活用につきましては、今年秋に、実施予定の農地利用状況調査におきまして、その実態を詳細に把握し、遊休地対策の一環といたしまして、企業参入も視野に入れ、有効な利用や適正な管理への方策について、関係機関等と協議してまいりたいと存じます。
香南地区	11	香南アグリームの活性化	香南アグリームは、年間を通して各種体験が行なえる農業交流体験施設ですが、施設の規模や職員の人員不足などにより、市民農園や体験教室がキャンセル待ち状態となっているのが現状です。 このような中、香南アグリームの活性化を図るため、 ①香南アグリームの近隣に位置し、年間71万人が訪れている「さぬきこどもの国」や「さぬき空港公園」と連携を図り、家族連れを中心とした、人を呼び込む周遊ルートを設定すること。 ②市民農園の区画数と体験施設での人員を増強し、キャンセル待ち状態を解消すること。 ③癒し系小動物と触れ合うことのできる体験の場を設置すること。 ④旬の果物をその場で採って、食べられる「体験果樹園」の充実を図ること。 など、恵まれた自然環境の中で、子どもたちが楽しく伸び伸びと「アグリーム＝夢のある農業」を体験できる施設に改善することを要望するものです。	産業経済部	農林水産課	香南アグリームは、本市が昨年度、地域の資源を活用し団体間の相互連携を図ることを目的として設立した、高松市グリーン・ツーリズム推進協議会に参加し、近隣のうどんづくりや、そば打ち、竹細工、動物とのふれあいなどが体験ができる施設と緊密な連携を図っております。 また、近隣の県園芸総合センターや、産直市などと、連携を図る中で、アグリームのより一層の魅力づくりと活性化に取り組んでいるところであります。 市民農園の増設につきましては、隣接する園地は、傾斜地であることから、新たに借り入れて、市民農園を拡大することは、困難と存じております。 また、体験教室につきましては、指定管理者と協議を重ね、頻度や定数の拡大・内容の充実を図っております。 さらに、果樹の収穫からジャムなどへの加工体験ができる、収穫教室についても、同様に、頻度や定数の拡大・内容の充実を図っております。 来園した子どもたちが、現在、飼育している山羊とのふれあいを通じて、命の大切さや生き物の多様性などを体感することは、現代社会が、ますます情報化・映像化していく中で、健全な人間性を育むうえでも、極めて有益でありますので、子どもたちが楽しく安全に、山羊とふれあえるよう、飼育施設を改修するとともに、改修後の利用状況や利用者の意見を踏まえ、香南アグリームを中心とした動物ふれあい施設の今後の展開方策等について、検討してまいります。

## 建設計画に係る平成23年度および24年度の実施事業に関する意見に対する対応調査

香南地区

地区名	項目番号	項目	事業の内容	担当部局	担当課	対応方針
香南地区	12	南部地域における特色あるスポーツ施設の整備	高松市南部地域の活性化と市民スポーツの振興のため、整備に当たっては、建設計画にある「南部地域の核となる特色あるスポーツ施設」として、ふさわしい施設となるよう要望するものです。 また、地域審議会や関係スポーツ団体等の意見を十分に反映し、南部地域の活性化につながる施設として、速やかに実現されるよう要望するものです。	市民政策部	スポーツ振興課	香川町と香南町の2つの合併協議会のまちづくりプラン（建設計画）における重点取組事項である「南部地域における特色あるスポーツ施設の整備」については、市域全体のスポーツ施設のバランスと効果的な連携を念頭に、合併特例債の活用など財源確保にも留意し、関係する3地区の地域審議会や関係スポーツ団体等の意見を聴く中で、本市としての基本的な考え方をまとめ、平成21年2月4日に香川・香南地区地域審議会に説明いたしましたが、香川地区地域審議会としては、提案された原案を見直し、全高松市民にとってより適切な施設の整備を要望する意見書が4月27日に提出されています。 その後、平成22年5月26日の香南地区地域審議会、5月31日の香川地区地域審議会において、新たに3箇所の整備場所の候補地をお示しし、協議を進めております。 今後とも、地域審議会を始め、市議会やスポーツ振興審議会、スポーツ関係団体など、幅広く市民の意見をお聴きし、本市としての具体的な施設方針である基本構想を策定してまいりたいと思っております。
香南地区	13	香川町シャトルバスの継続運行	香川町シャトルバスが香南町まで延伸され運行されていますが、利用率は依然として厳しい状況です。 しかし、高齢者等交通弱者の公共交通の利便性を確保するためにも、運行を継続するとともに、地域住民のニーズに即した利用しやすい運行形態へ改善されるよう要望するものです。	市民政策部	交通政策課	香川町シャトルバスについては、平成20年10月から、香南地区へ延伸（香南歴史民俗資料館～香南支所～香南楽湯～池西支所など）し、平日往復17便、土曜日往復10便という、高頻度での運行を行っておりますが、残念ながら香南地区における利用状況は、香川地区に比べ低調な状況にあります。 この香南地区での運行を維持するためには、利用促進が是非とも必要でありますことから、香南地区地域審議会におかれましても、「地域住民のニーズに即した利用しやすい運行形態」として求める具体的な内容や利用の見込みを、地域として取りまとめていただきたいと存じます。それを踏まえながら、香川地区コミュニティバス等利用促進協議会で、対応策を検討してまいりたいと存じます。
香南地区	14	CATVの香南地区へのエリア拡大	本年3月から香南地区においてサービスが開始されたケーブルテレビについては、加入率が低いことから、地域に密着した情報を積極的に提供するとともに、利用料金を低く設定するなど、各世帯が加入しやすい環境づくりに努められるよう要望するものです。	総務部	広聴広報課 情報政策課	ケーブルテレビによる本市の情報発信については、市政情報番組「いき・いき高松」で、本市の重要施策や制度を始め、市民生活に役立つ情報や、イベントに参加した市民の表情を紹介する番組の放送のほか、台風などの災害時には、避難情報などを迅速にお知らせする緊急の割込放送や、いつでも最新の市政情報を御覧いただける自主データ放送を実施しております。 特に、番組制作に当たっては、地域に密着した市民に身近な生活情報や、市民参加型のイベントの取材映像を積極的に取り入れるなど、市民にとって親しみと関心の持てる内容となるよう努力しております。今後とも、地域情報の充実に向けて、取り組んでまいりたいと存じます。 また、高松ケーブルテレビが制作する番組については、地域からの御意見として、御指摘の趣旨を踏まえ、地域情報の充実を要望してまいりたいと存じます。 次に、ケーブルテレビに加入しやすい環境づくりですが、ケーブルテレビの月額利用料や初期導入経費の割引キャンペーンの実施については、ケーブルテレビ会社が独自に設定しているため、地域からの御意見としてケーブルテレビ会社に趣旨を伝えてまいりたいと存じます。
香南地区	15	支所体制の充実	合併後の住民サービスの拠点として、また、新たなまちづくりの中心となる合併支所の役割は大変重要です。 現在、高松市においては、支所・出張所のあり方について、全庁的な体制の中で検討されていると伺っていますが、支所の職員数については、減少していけばいくほど、これまでのサービスの維持が難しくなるとともに、災害時の対応への不安に加え、支所には活気が無くなり、ひいては香南地区全体が沈滞していく心配があります。 このため、今後は将来に亘って現在の職員数を維持されるよう強く要望するものです。	総務部 市民政策部	人事課行政改革 推進室 地域政策課	地域を取り巻く環境の変化を踏まえ、地域の行政組織と本庁機能のあり方を全庁的な観点から検討するため、平成21年度に「高松市地域行政組織のあり方等検討プロジェクトチーム」を設置し、その中で支所・出張所の機能・権限、組織体制についても検討しています。今年度は、関係課の課長補佐級を中心としたワーキンググループを立ち上げ、支所出張所のあり方を検討しているところでございます。